

シームレスな医療の実現を目指す  
地域連携ネットワークの構築により

薬剤部・薬局訪問 第106回 市立宇和島病院



【市立宇和島病院】  
愛媛県宇和島市御殿町1-1  
●病院長: 梶原伸介  
●病床数: 426床  
●外来患者数: 1日平均約1,050人  
●外来患者への処方箋発行枚数: 1日平均510枚  
●院外処方箋発行率: 91%  
●薬剤師数: 15名  
(2017年1月現在)

市立宇和島病院は、急性期病院として四国西南地域の医療に貢献しています。2015年、宇和島を中心とした複数の病院とインターネットを介して患者さんの診療記録を共有する「きさいやネット」をスタートし、2016年からは保険薬局も参加を始めています。病院薬局の方針や注力する業務、ネットワークによる地域連携の進め方について、「きさいやネット」に関わる先生方に伺いました。



◀左から  
藤原 隆一郎 先生  
(愛ファーマシー株式会社  
あんず薬局 薬剤師/  
宇和島薬剤師会 分業委員長)  
大西 由利子 先生  
(市立宇和島病院薬局 薬剤師)  
梶原 伸介 先生  
(市立宇和島病院 院長)  
竹内 信人 先生  
(市立宇和島病院 薬局長)  
中 一 係長  
(市立宇和島病院 地域連携室)

中核病院の薬局として  
地域医療の活性化に貢献する

●●院内薬局の方針と、注力している取り組みをお教えてください。

竹内 当院は、精神科以外の診療科を有し、救命救急センターを併設する総合病院です。薬剤師も24時間365日常駐するとともに、スタッフ全員が全診療科に対応できるよう知識とスキルの習得を目指して業務に取り組んでいます。また薬局でのスローガンとして「ノー・ネガティブ・コメント」を掲げ、常に前向きに、創意工夫しながら業務を展開しています。その一つが、インシデント防止対策です。例えば、一度穿刺された輸液製剤が誤って使用されることのないよう、ゴム栓表面に独自のシールを貼付して未使用であることを明示しています。

2016年からはPBPM(プロトコルに基づく薬物治療管理)を開始しました。B型肝炎の検査オーダーや抗MRSA薬のTDMオーダーの代行を行っています。

大西 私は入局4年目ですが、DI業

務、調剤・鑑査、抗がん薬調製、持参薬の鑑別など幅広く担当しています。また、緩和ケアチームのカンファレンスやラウンドにも参加しています。

将来的には、緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得し、在宅患者さんのケアにも関わりたいと思いますが、まずはジェネラリストとしての力を磨くために、薬剤だけでなく疾患に関する知識も深めるよう努めています。

●●中核病院の薬局として、地域医療にはどのように関与していますか。

竹内 地域で活躍できる薬剤師を増やすことも私たちの使命だと考えています。病院を挙げて開催する「健康フェスティバル」では、薬剤師コーナーを設けて高校生に職業体験をしてもらい、薬剤師の仕事に興味を持ってもらえるようアピールしています。

また、当院が中心となり、地域の医療機関が患者さん情報を共有してシームレスな医療を目指す「きさいやネット」を2015年に立ち上げました。保険薬局も参加しており、当薬局はそのサポートを行うなど、地域連携の推進に力を注いでいます。

地域の医療機関でカルテ情報を共有、質の高い医療を目指す

●●「きさいやネット」とは、どのようなシステムなのでしょうか。

梶原 当院に入院された患者さんが、退院後も質の高い医療を一貫して受けられるよう、患者さんの同意の上で、電子カルテ情報を地域の医療機関がインターネットを介して共有するシステムです(図表)。「カルテは患者さんのもの」というコンセプトの下、患者さんの便益を第一に考えスタートしました。

参加医療機関は開始当初の24施設から、2017年1月現在59施設まで増えました。2016年以降、保険薬局も8施設が参加しています。

●●ネットワークを構築・運用するにあたり、重視した事柄をお教えてください。

中 ネットワークの推進活動は、既に地域の診療所と顔なじみの関係になっていた地域医療連携室が担当し、医療機関が参加、継続しやすい仕組み作りを重視して取り組んできました。

まずPGとインターネット環境さえあれば導入でき、利用料も無料とすることで、参加のハードルを低くしま

した。また、最初はITになじんでいる医師に導入してもらい、口コミで広がっていきました。更に、個別に接続設定のサポートや利用方法の説明、フォローアップを行うなど、手厚い支援体制を整えました。

●●病院薬局は、「きさいやネット」にどのように関わられているのでしょうか。

大西 主に保険薬局参加の窓口業務を担当しており、参加施設からの疑義照会の対応も行っています。宇和島薬剤師会との共催による参加説明会では、検査値の見方などを解説しました。患者さんが安心して退院後も薬物治療を受けるには、より多くの施設の参加が不可欠ですので、継続して参加支援に取り組んでいます。

●●保険薬局として「きさいやネット」に参加し、どのような印象をもたれていますか。

藤原 インターネット上で患者さんの病名や検査値を詳細に確認できるのは、大きなメリットだと思います。経口抗がん薬を使われる患者さんに対しても、レジメンを閲覧して治療の全体像を把握した上で、副作用モニタリングやきめ細かな患者指導が行えるよ

うになると考えています。

宇和島薬剤師会は地域連携の一つの形として「きさいやネット」に賛同しており、私も、副作用モニタリング事例を情報交換会で報告するなど、「きさいやネット」を含めた地域連携の意義やメリットを他の薬局に訴求しているところ です。

●●現在の状況について、病院側としての感触をお聞かせください。

梶原 退院された患者さんからは「かかりつけ医から検査画像などを基に詳しい説明が受けられて嬉しい」「病院、かかりつけ医、かかりつけ薬局など、皆さんから見守られていると実感でき、安心できる」など高評価をいただいております。上々の成果が得られていると思います。

地域包括ケアシステム構築を見据え  
多職種参加を呼びかけたい

●●最後に、「きさいやネット」への今後の期待や展望をお聞かせください。

中 将来的に、当院と地域の医療機関の間で双方向の情報共有を目指したいと考えています。それにより、救急搬送された患者さんの情報を迅速に得ることができ、救急医療でも大いに役立つと思います。

竹内 高齢化が進む中、在宅医療も含め地域全体でいかに質の高い医療を支えるかが重要になります。当薬局としても、「きさいやネット」を核とした医療連携の拡大を、今後も図っていきたくと考えています。

梶原 現在推進されている「地域包括ケアシステム」の一環として、介護施設など様々な施設・職種の参加を募り、連携をより一層充実させることが理想です。患者さんも含め、多くの方が「きさいやネット」に関心を持ってもらえるよう啓発していきたいと思

図表 きさいやネットの概念図(保険薬局との情報共有の例)

